

これからの群馬県訪問看護ステーション連絡協議会

群馬県訪問看護ステーション連絡協議会副会長
サンピエール病院訪問看護ステーション 永田 和洋

2025年問題に向けて、国が地域包括ケアシステム構築の取り組みに力を入れる中、訪問看護師への期待は大きいです。今年2月に開催されました訪問看護連絡協議会全国会議でも、地域包括ケアシステムにおける看看連携の重要性の説明のなかで、千葉県及び埼玉県の看護協会での看護職連携構築モデル事業の報告がありました。医療と介護の連携は元より多職種連携を図ることにより、切れ目のない医療、看護、介護を提供でき、最期まで地域で暮らすことを望む生活者と家族を包括的に支援しなくてはならないと痛感しました。

当連絡協議会でも群馬県全体の訪問看護の質の向上を目指し、1)各事業所の専門性を活かしつつ新たな分野の訪問看護を安心して提供できるよう研修を充実させること、2)地域や時代のニーズに合わせて小児や精神領域など幅広い訪問看護に対応できる力を養うこと、3)事業所同士の横の繋がりを強化させ情報共有や相談しやすい環境を作ることを目標にしています。

昨年秋に開催されました、都道府県訪問看護ステーション連絡協議会の関東甲信越ブロック会議のなかで、埼玉県に続き栃木県でも連絡協議会を法人化した報告がありました。情報の共有化、訪問看護サービスの質の向上と他のサービスとのネットワークの確立を図ることや、よりしっかりした組織として社会に認められる団体になることを目的に法人化したと伺いました。群馬県訪問看護ステーション連絡協議会としては、当面このままの状態、群馬県・群馬県医師会・群馬県看護協会に協力を得ながら今後も精進したいと考えています。

災害対策に向けた取り組みについても今年度の課題として考えています。群馬県内において、これまでは大きな災害は少なかったですが、今後はどのような自然災害が襲ってくるかわからない状況にあります。医療機器の利用に関わらず地域で療養されている生活者や家族、また、単身生活者や老老介護世帯の方が、大きな災害時でも困ることなく対応できるよう安全・安心な災害対策の構築に貢献できるよう努めていきたいと思っております。



編集後記

毎年繰り返される四季を感じながら訪問に向かう私たち訪問看護師。季節によっては良い時もあり、大変な時もあり…。今年の1月は「最強寒波」と言われる大雪の日がありました(写真)。自宅での雪かき、出勤してからの雪かき、訪問先での雪かきで体力の限界を感じる時もありますが、訪問を待ち望んでくれている利用者さんのために、頑張っています。



山間部

群馬県訪問看護ステーション連絡協議会だより



平成 29 年 月 日
第 24 号

発行 群馬県訪問看護ステーション
連絡協議会
群馬県医師会内
住所 〒371-0022
前橋市千代田町一丁目7-4
TEL 027-231-5311
FAX 027-231-7667
http://www.gunma.med.or.jp/houmon/
責任者 須藤英仁

訪問看護ステーション連絡協議会に期待すること

一般社団法人全国訪問看護事業協会 会長 伊藤 雅治



訪問看護制度の前身である老人訪問看護が平成4年にスタートしてからこの1月で満25年が経過した。老人訪問看護の制度化は、看護師が管理者の訪問看護事業所に、病院や診療所と同様に診療報酬が支払われるという医療保険制度史の上でも画期的なことであった。制度発足当初は事業所として経営が成り立つかどうか大きな課題であったが、それから25年を経過した現在、訪問看護事業所に対する期待は大きく変化してきている。

2025年を念頭に置いて地域包括ケアシステムの構築が最大の課題になっている。地域包括ケアシステムの中での訪問看護事業所がどのような役割を果たすべきかが喫緊の課題である。このような視点で考えると、訪問看護事業所の経営者、管理者が単独で自分の事業所の在り方を考えるだけでなく、地域の事業所が協働でその地域にどのような在宅ケアのシステムを構築するのかという課題に取り組む必要がある。すでに大部分の都道府県においては訪問看護事業所の集まりである訪問看護ステーション連絡協議会が結成され活動しているが、訪問看護事業所にとって重要なことは、都道府県単位での活動だけでなく市町村レベルでの在宅医療計画策定への参画である。したがって、県レベルの訪問看護ステーション連絡協議会の下に下部組織としての郡市単位又は市町村単位の訪問看護ステーション連絡協議会を組織し、県レベルの協議会と連携し地域包括ケアシステムの構築に取り組むことが期待されている。

全国訪問看護事業協会ではこのような考え方で現状を把握するため、都道府県連絡協議会の下部組織の活動の実態把握のためのアンケート調査を行ない、38県から回答をいただいた。下部組織としての地域単位の訪問看護ステーション連絡協議会として取り組んでいる活動としては、①市町村における在宅医療計画に関わる検討・活動 ②地域の中の24時間体制、コールセンターへの取り組み、基金の活用促進などについての検討・活動が多かった。

訪問看護ステーション連絡協議会では、このような都道府県レベルでの活動の他に、在宅医療計画の策定への参画等市町村レベル、地域レベルでの活動が重要になっている。群馬県訪問看護ステーション連絡協議会におかれても県レベルの連絡協議会と地域単位の連絡協議会が密接に連携し全国の先導役となるような地域包括ケアシステムを構築されることを期待している。

「在宅看護におけるケア情報のICT化」を聴講して

訪問看護ステーション^{まな}愛の家 後藤 広志

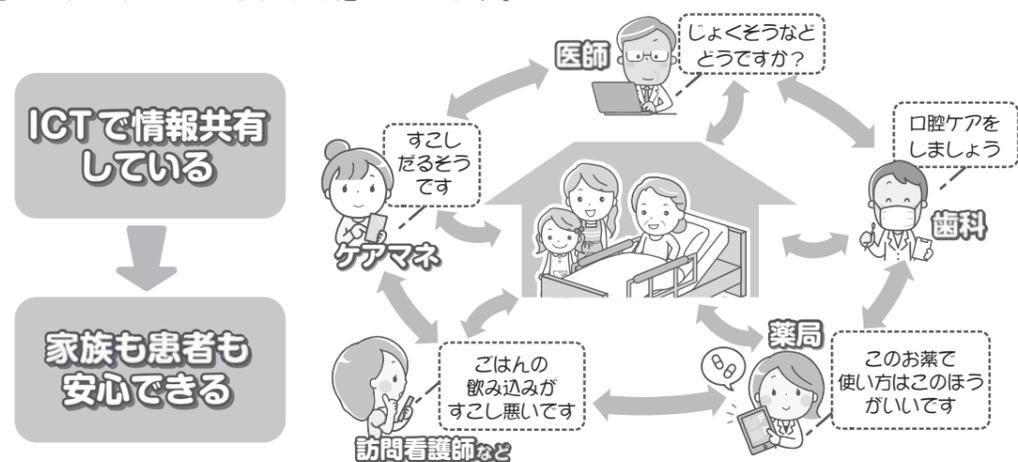
群馬県多職種連携コミュニケーションシステムでは医療介護SNS「メディカルケアステーション(以後MCS)」を利用しています。医療・介護分野で、顔と顔を合わせる関係は大切ですが、今後益々SNSなどのコミュニケーションツールを使った連携が浸透していきます。

事実、様々な企業からタブレット端末を使用した看護・介護管理の提案もあります。しかし、システムの導入となりますと、多額のコストがかかるのが課題となります。MCSの活用となると、事業所の看護記録とは別にMCSでの連携をおこなうことになるため、事業所での訪問記録とMCSでの連絡が重なってしまい、記録や請求業務のスマート化を目指していることと逆行してしまいます。

また、タブレット端末を使用する課題として、災害時に充電が切れてしまい電源が確保できない状態であれば、入力も確認もすることができないので、書面で確認できるように準備しておかなくてはなりません。アプリケーション端末でも、迅速に対応できるように書類の印刷などが簡単にできるようにしておく必要があると思います。

MCSへの期待は、スケジュール・バイタル登録連携機能等で、利用者様のスケジュール管理から看護師や他業種の記録の閲覧・状態把握ができ、更に実績の登録・保険請求ができると思います。そして、操作方法をシンプルに、他業者のソフト・アプリケーションからもMCSとリンクすることができれば、記録時間も削減でき多職種との情報交換が取りやすくなると思います。

MCSの進展により多職種が働きやすく、利用者様がより安心して生活ができる地域づくりへの架け橋になることを期待します。そして、MCSが普及することにより、群馬県の訪問業界のICT化はモデルケースになれると感じています。



「精神科訪問看護とは」の講演に参加して

青梨子訪問看護ステーション 金田 奈穂美

精神科疾患の利用者は、コミュニケーションが苦手で他人に自分の気持ちをなかなか上手に伝えられない時もある。また、様々な生活のしづらさを感じている。そのため、精神科疾患の利用者に対して訪問看護師は、利用者の生い立ち、生活背景、発生のきっかけなどを利用者や家族の会話から深く知ることが大切であることを理解できた。利用者のことを深く知るためには利用者と訪問看護師との信頼関係の構築がとても重要となる。

利用者にとって、初回訪問の訪問看護師は印象がとても重要で、ある2点のことを踏まえて訪問することを学んだ。1点目は、利用者に緊張感を与えないように笑顔で接し、私たち訪問看護師は利用者に対して「私は、あなたの見方になりたくて来ています」と伝わるように接すること。



2点目は、話しやすい環境を作り出し、利用者主体で話せるように、沈黙の時間を大切にすること。声のトーンや話すペースなどを考え、利用者に関心を持ちながら心で傾聴することを学んだ。

現在、私が受け持っている統合失調症のOさん70代女性、服薬困難で幻聴が見られている。私は、Oさんとの信頼関係を構築できるように常に笑顔で接し、Oさんが主体的に話せるように雰囲気づくりに努めながら訪問を開始した。訪問を重ねるとOさんは絵を書くことが好きであることがわかり、Oさんは絵を通して私に心を開いてくれるようになってきた。そして、1年以上入浴ができていない状態を知り、私は家族と相談し介護保険の申請のこと、ケアマネジャーを導入し、認知症専門のディサービスを紹介し入浴できる環境と他の介護サポートの必要性を説明した。私はOさんがディサービスを利用できるか心配だったが、Oさんはディサービスを気に入ったようで利用してから1度も休むことなく1か月利用できるようになった。

私は精神科訪問看護の難しさ、看護の奥深さを痛感するとともにやりがいを感じ興味を持ちました。今後は更に自分のスキルを上げ、それぞれの利用者がその人らしく生活を送れるように考え訪問看護師として日々努力していきます。

最後に講演して下さった小俣裕子先生に感謝いたします。ありがとうございました。

